

独立行政法人統計センター評価に関する有識者会議[議事要旨]

1 日 時:令和7年7月30日(水) 15:00~16:00

2 場 所:総務省第2庁舎 6階特別会議室(オンライン併用)

3 出席者:(有識者) 廣松毅(座長)、加藤久和、小林稔(オンライン:岩下真理)(欠席:
津谷典子)(敬称略)

(総務省統計局) 永島統計局長、小松総務課長、小川統括補佐、齋藤課長補佐、
事務局

(統計センター) 柴沼経営審議役、伊藤総務部長、江原経営企画課長
(陪席:岩井課長代理、山崎係長)

4 議 題: (1) 令和6年度に係る業務の実績に関する評価(案)について
(2) 総合評定(案)について
(3) その他

5 議事概要:

(1) 総務省統計局から令和6年度に係る業務の実績に関する主務大臣による評価(案)の説明が行われた。

(2) 質疑が行われた後、総務省統計局から総合評定(案)について、説明が行われ、項目別評定及び総合評定ともに妥当であるとの意見で一致した。

(3) 有識者からの主な意見等は以下のとおり。

○各府省への支援についても統計センターの重要な仕事だと考えているところ、「公的統計の発展と支援に関する事項」での実績を高く評価している。

○「業務の効率化」について、単に要員投入量を減らしたというだけではなく、それによってほかの業務にプラスの貢献があれば、より高い評価をしてもよいと考えている。

○新たな統計調査であるサービス産業動態調査の実施において様々なサポートを行い、非常に高い回答率を確保できたというところは評価すべき。

○システムの稼働率を非常に高いレベルで維持してきたことは評価すべき。また、API機能やjSTAT MAPの新規利用登録数が着実に増加しているが、これは高い努力が妥当な数字になったものだと思うので、非常にいい評価がついたのではと思う。

○統計センターの担う業務の幅が広がってきているところだが、評価においては製表業務に重点が置かれている重要度や困難度、総合評定を検討する際のバランス等、評価の在り方についても改めて検討していただきたい。

以 上